

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 1 学ぶ喜び、わかる喜び、達成感を味わわせ生涯にわたって学び続ける態度を育成する
- 2 自分を大切にするとともに他の人も大切にすることを育成する
- 3 将来の生き方やあり方を見つめ、未来を切り開く力を養い、自立した社会人を育成する
- 4 生徒と会話する力を教職員がより高め、生徒が話をしたい、相談したいと思える学校（心の居場所）づくりを行う

## 2 中期的目標

- 1 基礎学力の向上
  - (1) 基礎学力の向上と資格取得
    - ア 生徒の学力差の幅が大きい本校の状況に対応した、基礎学力確保のための教育課程の編成と教員全体の授業力向上。  
※生徒向け学校教育自己診断の項目「授業内容はわかりやすい」の肯定率（平成 27 年度は 67%）を平成 30 年度には 75%以上にする。  
※教員向け学校教育自己診断の項目「学習意欲の高い生徒や低い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」の肯定率（平成 27 年度 83%）を平成 30 年度には 85%以上にする。
    - イ 資格取得の奨励と支援
      - ・専門高校の特色を生かし、組織として資格取得に向けた支援体制を充実させるとともに、資格取得を目的とした科目を教育課程上に位置付ける。
      - ※資格取得に挑戦する生徒の割合が長欠生徒を除く生徒全体の 50%以上とし達成感を持たせる。
  - (2) 安全で安心な学校づくり
    - (1) 一人ひとりを大切に、他者を思いやる心の醸成を図る。
      - ア 教育相談体制の確立
        - ・生徒一人ひとりに寄り添い、生徒と人間関係を築き生徒理解を深める。
        - ケース会議などを通じて生徒情報の共有を図る。
        - ・支援コーディネーターを中心に SC、SSW、教職員の 3 者が有機的に連携協力できる体制づくり。
        - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率（平成 27 年度は 74%）を平成 30 年度には 75%以上にする。
        - ※教員向け学校教育自己診断の項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率（平成 27 年度は 70%）を平成 30 年度は 85%以上にする。
      - (2) 社会の形成者としての自覚と忍耐力・責任感を養い、規範意識を身につけさせる。
        - イ 志学、道徳、キャリア教育の実施
          - ・あいさつ運動、地域での清掃活動などを通して社会人としてのマナーを養う。
          - ・キャリア教育、志学、道徳、人権教育を総合的に行うための校内体制の整備
          - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「将来の仕事について先生と話したことがある」の肯定率（平成 27 年度は 74%）を平成 30 年度には 75%以上にする。
          - ※卒業生のうち、進路未定者数 3 人以下の維持
        - ウ 行事等を通して、自主自立の精神を養うとともに達成感を持つことにより、自己肯定感を高める。
          - ・体育大会や文化祭等の行事の活性化
          - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「体育祭や文化祭が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率（平成 27 年度は 65%）を平成 30 年度には 65%以上とする。
      - (3) 中途退学防止および原級留置の減少
        - エ 不登校生徒への働きかけと授業規律の徹底
          - ・出身中学校、前籍校との連携および懇談、家庭訪問等による家庭との連携
          - ・「教科指導」＝「生徒指導」という認識で授業にのぞむ。
          - ※すべての新生生について、出身中学校を訪問する。編転入生については前籍校と連携する。
          - ※当年度入学者の進級率 50%以上の維持
          - ※授業アンケートの項目「授業中は進んで学習や実習に取り組んだ」について、毎年 3.3 ポイント以上とする。（満点は 4、平成 27 年度は 3.39）
  - 3 学校運営体制の確立と教職員の資質向上
    - (1) 学校が直面する課題に対して、迅速な意思決定と効率的な運営をめざす。
      - ア 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営の定着をめざす。  
※教員向け学校教育自己診断の項目「職員会議をはじめ各種会議が、意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」について、肯定的回答率（平成 27 年度 56%）を平成 30 年度には 65%以上にする。
    - (2) 開かれた学校づくり
      - イ 地域住民や中学生対象に体験教室の実施
      - ウ 中学生およびその保護者や在校生および保護者のニーズに対応した Web ページ作り
    - (3) 教職員の資質向上
      - エ 学校教育目標に向け、教員集団が協働体制を確立し、一丸となって取り組む。
      - オ 初任者研修を兼ねた教職員研修の実施とミドルリーダーの育成
      - カ SC、SSW等の専門員が生徒と教職員との関係を有効に導く体制を維持するとともに、専門員が不在であっても対応できる（話す、聞く）力を持った教職員を育成する
      - ※教員向け学校教育自己診断の項目「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」について、肯定的回答率（平成 27 年度 50%）を平成 30 年度には 65%以上にする。
      - ※教員向け学校教育自己診断の項目「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施され教育実践に役立つ内容となっている」について、肯定的回答率（平成 27 年度 72%）を毎年 75%以上にする。
      - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「悩みや相談にのってくれる先生がいる」について、肯定的回答率（平成 27 年度 74%）毎年 70%以上を維持する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<b>【学習指導等】</b> ・「授業内容はわかりやすい」67.4%→65.4%、授業評価「授業を受けて・・・感じている」3.42→3.25 ※率的、ポイントにはやや減少だが、母数が少ないことを踏まえると全体的に肯定的であった。	第 1 回(6/23) ・生徒の心の居場所になる学校づくりを継続していただきたい。 ・生徒とのコミュニケーションを意識的に持つことを大切である。 ・生徒の多様性を視野に入れ、個性を伸ばし成長させてほしい。 第 2 回(10/27) ・積み重ねや人と多く関わるなどで生徒の自信に繋がる。 ・居場所づくりのために様々な取り組みをしている。不登校の生徒であっても社会に出ていけるよう今後も取り組んでほしい。 ・定時制は全日制と違う努力が必要であり、先生方の努力が学校行事等の参加率に繋がっている。今後も続けてほしい。 第 3 回(1/19) ・今後も SC、SSW も含めた居場所づくりに取り組んでほしい。 ・進路指導は難しいが、一つの方向性を見出すキャリア教育の充実を図ってほしい ・様々な行事等で生徒が学校に来られるようにしてほしい
<b>【生徒指導等】</b> ・「悩みや相談にのってくれる先生がいる」74.4%→67.3%、「将来の仕事・・・先生と・・・」74.4%→75.0% ・「参加したいと思う行事がある」60.5%→61.5%、「体育祭や文化祭・・・されている」65.1%→63.5% ※肯定的意見が多い。今後も教育相談や生徒と接する機会の多い学校行事・クラブ等の充実を図りたい。	
<b>【学校運営】</b> ・「職員会議をはじめ各種会議が・・・」55.6%→47.6%、「・・・次年度の計画に生かしている」83.35→71.4% ・「校内研修組織が、・・・教育実践に役立つ・・・」72.2%→66.7%、「各分掌や・・・機能・・・」72.2%→47.6% ・設問を変更「この学校の行事（懇談や授業参観、学校行事）に参加したことがある」21.4%→75.0% ※設問を変更したことで肯定的な率の増加となったものもあるが、教員間の意思の疎通を高め、活発な議論、打ち合わせが行えるよう工夫して参りたい。	

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力の向上	<p>(1) 基礎学力の向上と資格取得</p> <p>ア わかる授業作り イ 基礎学力の向上 ウ 資格取得の推進</p>	<p>ア・授業アンケートの活用</p> <p>・他校の公開授業や他の定時制高校の授業見学を活用し授業力の向上を図る</p> <p>イ・個に応じた学習指導</p> <p>・モジュール授業を応用した授業作り</p> <p>ウ・情報や工業の授業で学んだことを生かし、資格の取得を推進する。モジュール授業のゼロ限を活用した検定大会等の開催（百マス計算・漢字検定校内大会）</p> <p>エ ICTを活用した授業展開の増加</p>	<p>ア・授業振り返りシートの提出（年2回：非常勤を除く全員）</p> <p>・職員会議での授業見学報告</p> <p>イ・「…学習指導を、個に応じた視点で工夫して…」の肯定率を85%以上</p> <p>・ゼロ限チャレンジ数学等で実施</p> <p>ウ・受験者数延べ40人以上</p> <p>・合格率60%以上</p> <p>エ・教員の70%以上がICTを活用した授業を行う。</p>	<p>・1月末日全員回収（○）</p> <p>・授業観察シート全教員提出（○）</p> <p>・職員会議後に見学・研修報告（○）</p> <p>・本年度は90.5%（◎）</p> <p>・ゼロ限目チャレンジ数学（モジュール授業）で百マス計算等の学習効果あり、百マス計算大会・漢字検定・新規の地理検定大会の開催・表彰楯の作成（◎）</p> <p>・受験者数56人、合格率62.3%（○）</p> <p>・教員の66.7%がICTを活用した授業を展開。もう少し増加させたい。（○）</p>
2 安全で安心な学校づくり	<p>(1) 一人ひとりを大切に、他者を思いやる心の醸成を図る</p> <p>ア 教育相談体制の確立</p> <p>(2) 社会の形成者としての自覚と忍耐力と責任感を養い、規範意識を身につけさせる</p> <p>イ 志学、道徳、キャリア教育の実施</p> <p>ウ 行事や部活動を通して、自己肯定感を高める</p> <p>(3) 中途退学防止、原級留置生徒の減少</p> <p>エ 不登校生徒への働きかけと授業規律の徹底</p>	<p>ア・教育相談体制の充実：学校生活支援カードを活用し、生徒の自立と社会参加を支援する。</p> <p>・ケース会議の開催</p> <p>・成績会議で成績以外の生徒情報も共有する</p> <p>イ・系統的なキャリア教育の実施</p> <p>・教育相談や個別の教育支援計画を通じて生徒の進路実現を達成する組織体制の確立</p> <p>・地域の清掃活動を実施し、集会で活動報告を行う</p> <p>・正規雇用にもかかわらず効果的な自立支援</p> <p>ウ・生徒数減に対応した文化祭や体育大会の工夫で生徒に活躍の場を与える</p> <p>・部の統合など、生徒数に応じた部活動の在り方を見直しクラブ活動の活性化を図る</p> <p>エ・入学生の出身中学校訪問や前籍校訪問による早期の生徒理解</p> <p>・長欠生徒等に対する粘り強い指導</p> <p>・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教職員の3者の連携強化</p> <p>・授業が生徒指導の原点であることを踏まえ、授業規律を徹底する</p>	<p>ア・「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率74%</p> <p>・年間20回以上</p> <p>・「教育相談体制が整備されており、…」の肯定率90%以上とする。</p> <p>イ・「将来の仕事について先生と…」の肯定率75%</p> <p>・卒業生のうち進路未定者数を3人以下</p> <p>・地域清掃 年3回実施</p> <p>・外部組織と連携し、将来的に就職に結びつく支援</p> <p>ウ・「体育祭や文化祭が楽しく行われるように工夫されている」の肯定率65%</p> <p>・「参加しようと思うクラブがある」の肯定率45%→56%</p> <p>エ・当年度入学者の進級率50%</p> <p>・家庭訪問回数の増加を図る</p> <p>・中学校訪問数の増加を図る</p> <p>・「授業中は進んで…に取り組んだ」のポイント3.3以上</p> <p>・授業中のスマートフォン操作の禁止（継続）</p>	<p>・肯定率67.3%となり昨年度よりやや減少。利用実績のある生徒らが成長し、利用回数が減少したと考えられる。良い方向ともいえるのではないかと。（○）</p> <p>・SCとSSWの相談数の合計91回（平成27年度70回）（○）、ケース会議52回（平成27年度39回）（○）</p> <p>・設問の「…体制が整備…」という意味が分かりづらかったようで肯定率57.1%に減少した（△）</p> <p>・肯定率75.0%（○）</p> <p>・進路未決定者なし（○）</p> <p>・地域清掃3回（○）</p> <p>・進路または、キャリアガイダンスを全学年で実施（○）</p> <p>・工夫されている肯定率は、63.5%でやや減少、体育祭72.6%、校外学習64.3%、文化祭84.0%の参加率が大幅増加（○）</p> <p>・肯定率53.8%（○）</p> <p>・進級率66%（平成27年度65%）（○）</p> <p>・家庭訪問回数8回（H27年度38回）（○）</p> <p>・電話連絡回数580回（H27年度560回）（○）</p> <p>・生徒指導的中学校訪問回数42校（H27年度36校）（○）</p> <p>・「授業中は進んで…に取り組んだ」のポイント3.3（○）</p> <p>・机の上に携帯を出さないなどの統一した対応を実施。新規に中抜け指導も実施。特定の生徒以外は校外に出なくなった。毎時間立番の効果が表れた。（○）</p>
3 学校運営体制の確立と教職員の資質向上	<p>(1) 学校運営体制の確立</p> <p>ア 組織として育成すべき生徒像を共有し、協働体制で取り組む</p> <p>(2) 開かれた学校づくり</p> <p>イ 授業公開</p> <p>ウ 地域住民や中学生対象に体験教室の実施</p> <p>(3) 教職員の資質向上</p> <p>エ 効果的な研修とミドルリーダーの育成</p> <p>オ 生徒との教育相談できる力の育成</p>	<p>ア</p> <p>・資格取得を生徒が成功体験を経験する絶好の機会と捉える視点を共有し、全教員が協働体制で取り組む</p> <p>イ・年間を通じた授業公開</p> <p>・学校行事や授業見学への保護者の参加を促進</p> <p>ウ・地域住民対象にものづくり教室の実施</p> <p>エ・外部研修等を受講した教職員による校内研修での発表もしくはその報告</p> <p>・スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカーによる研修の実施</p> <p>オ・学校が心の居場所となるため、教職員がより聞き上手、話し上手になるための研修等に教員を派遣する。</p>	<p>ア・教員自己診断「教職員間の相互理解…、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」の肯定率65%(H27-50%)</p> <p>イ・保護者自己診断「授業参観や学校行事に参加したことがある」65%(H27-21%)</p> <p>ウ・夏季休業中に実施 光る泥団子教室等</p> <p>エ・年間10回以上実施</p> <p>・各1回実施</p> <p>・生徒向け自己診断「教え方に工夫している先生が多い」肯定率70%(H27-70%)</p> <p>オ・年間延べ10人程度を想定</p>	<p>・肯定率50.0%→76.2%大幅に増加（◎）</p> <p>・わかりづらいと考え、設問を「この学校の行事（懇談、授業参観、学校行事など）に参加した」と変更した結果、肯定率21.4%→75.0%大幅増加（◎）</p> <p>・ものづくり支援で「出前授業」を堺市人権センターで開催、若手の育成の場（◎）</p> <p>・橋コンテストに作品を出展、全国団体3位、一般でも1位2位となった。（◎）</p> <p>・年間12回（○）</p> <p>・SCとSSWの各1回実施（○）</p> <p>・肯定率69.2%（○）</p> <p>・学校心理士カウンセラーやAL授業、ピアメディエーション等を学ぶ研修にのべ35人を派遣（◎）</p>